

近代考古学の射程距離

山岡邦章

先日、横須賀市で、出土した三八式歩兵銃(さんばちしきほへいじゅう)を見学する機会を得ました。三八式歩兵銃とは、明治 38 年以降に大日本帝国陸軍の正式銃として採用された銃で、日本ではその後第 2 次世界大戦終了まで使用される基本的な銃です。

この銃自体はそう珍しいものでもありません。大阪砲兵工廠などでも部品が出土したり、現在でも博物館などに展示されていたり靖国神社などにもいくつかあります。また、使いやすさなどから戦後は銃身をショートに加工してマタギなどの間で獵銃として使用されていました。

私はいま、近代考古学の射程について考えています。考古学では煉瓦やガラス瓶が考古学の対象となっています。岸和田でも土地柄として、これらは欠かせない素材です。そして、こういう戦争遺物についても当然ながら考古学の射程圏内に入ってくるものという予測はあります。

ですが、なんだか腑に落ちない気がしていました。ここまで来ると military 趣味と紙一重なんじゃないかと。考古学の対象として捉える必要があるのか？と。

しかし、この三八式歩兵銃を目の前にして、間違いなく考古学の射程に入ることがわかりました。銃をみていただくとわかりますが、なんだか先が曲がっています。これは埋もれていたからでは無いのです。横須賀という軍の聖地で武装解除が行われるにあたり、菊の御紋章の入った銃を使用できないように曲げて埋めているのです。右に写っているものも、左に曲がっているのが机面の影からわかります。



写真: 出土した三八式歩兵銃(横須賀市教育委員会保管)

こうなると、これが埋まっていた穴は、ある時代の人が明確な意図を持って埋納した埋納土坑、つまり遺構なのですね。私たち考古学の技師が、普段、土器の底部に穿孔があるのを見て、何らかの人の意図を汲み取り“何らかの祭祀(おまつりごと)が行われたと考えられる”として報告書でまとめているものと同じなんだ！？と気がつきました。

実は終戦に伴う武装解除もある意味“祭祀”なのです。ある時期に大きな外的、内的意図が働いて執り行

われたセレモニーと解釈できるのです。わかりやすく極端に言えば、先を曲げて埋納された菊の御紋章入りの三八式歩兵銃と、弥生時代の青銅器が多量に出土したことで有名な出雲の神庭荒神谷遺跡は、精神構造的に同じといえるのでしょうか。そこには、武器や威信財の廃棄、埋納にまつわる思想が見え隠れします。いや、出雲での 358 本の銅剣埋納が、銅剣は直接的な武器ではないものの、精神的な武装解除なのかもしれませんね。

また、民俗学的な視点からも興味深いものです。日本には道具の威力を残したまま遺棄すると、物の怪として祟るといったような九十九神（つくもがみ）信仰が知られます。今でも針供養など、役目を終えた道具の供養などにその観念が読み取れます。帝国陸軍という高度に近代化された組織の最期において、非常に習俗的な行為が行われている可能性があるという事実。面白い精神的コントラストではありませんか。

曲がった銃は、もはや銃としては使えません。ただの鉄くずです。でも、それは近代考古学の射程距離を示しており、古代でも近代でも人の精神的な側面は変わらないという重要な情報を伝えてくれています。

（やまおかくにあき：郷土文化室）

自然資料館の 2 階展示がリニューアルされました

- 古生物コーナーがより充実し、ミニ実習コーナーも新設 -

濱塚 博

きしわだ自然資料館は 12 月 1 日よりリニューアルオープンしました。地元泉州に密着した自然史系博物館として、みなさまに常に新鮮な話題を提供し、より深く自然への関心を培ってもらえるよう、これまでさまざまな自然観察会・実習会などの行事や、特別展開催をはじめ身近に活用してもらえる資料等の出版活動も行ってきました。ところが、近隣地域の幼小中の子どもたちは毎年見学のために館をおとずれてくれています。ところが、阪神淡路大震災の年に開館してから 15 年以上が経過したにもかかわらず、これまで館内の常設展示はほとんどが開館当時のままの状態でした。昨年、幸いなことに 2 階の展示場の一部を更新できることが決まったので、この際、地域の自然をより身近に実感してもらえるようにしようと、化石資料の新しい展示を充実させ、ミニ体験コーナーを設けるなど、できる限りの工夫を凝らして、2 階展示場のおよそ半分弱の広さを約 1 ヶ月間かけてリニューアルすることができました。

開館当初は、エントランスで大きな牙をもつナウマンゾウが出迎えてくれていました。ところが開館直前に見つかったキシワダワニの展示ケースがその後に増設され、岸和田の四季の移り変わりを紹介するマルチ映像コーナーの入り口部分をふさぐ形になっていて、圧迫感があり、見学の導線が複雑であるという問題が



写真 1: モササウルス展示コーナー

ありました。今回の更新では、キシワダワニの展示ケースの後ろにあった壁を取り払い、ケースを右横後ろへ移動することで、エントランスに大きな広がりを実現することができました。加えて、マルチ映像コーナーをそっくり取り払い、ここに近年、和泉層群から化石が次々と発見されているモササウルス類をメインにした展示コーナーを新設しました(写真1)。このコーナーの中央には、アメリカから購入したモササウルスの一種、クリダステスの全身骨格が、は虫類の実際の動き方を考慮したS字の曲線で復元されていて、迫力あるすがたを間近にみることができます(写真2)。1766年にモササウルスが発見された経緯から始まり、大きいものでは15mにも及ぶというこの「海生のオオトカゲ」の生態や最新のモササウルス研究を紹介しているほか、泉南地域から発見された数多くの実物化石や大きな生態復元画を展示しています。また、小さい頃から熱心に化石研究を続けた故宮内和也君の業績も紹介しています。

今回新たに設けた「地質学のパイオニア」コーナーでは、今から80年も前(昭和初期)に、旧制岸和田中学校の先生と有志生徒が泉南地域で化石の新産地を次々と発見し、和泉層群の「秋山不整合」やコダイアマモ化石を報告するなど、当時の日本の地質学研究の進展に大きく貢献したことを紹介しました。また、泉州地域の地質がよりわかりやすくなるように、カラーパネルや写真パウチを増設し、化石採集のようすや露頭写真などを多数加えました。

従来からあるナウマンゾウの全身復元骨格のサークルの中には、今回新たに、海底から引き上げられたゾウの化石と、それに混じって見つかるシカの角の化石(レプリカ)を展示しました。またゾウの足下には、和泉市で約100万年前のゾウやシカ、鳥類の足跡化石がみつかったようすを、ほぼ実物に近い大きさのパネルで表示しました(写真3)。泉州地域の大阪層群からは、さまざまな動植物の化石だけでなく、足跡などの印象化石もみつかることがあるのです。

以上のほかに、岸和田周辺の岩石や火山灰層の展示も充実し、和泉層群から見つかったアンモナイトなど多くの化石を展示するとともに、一部はさわれる標本としてケースの前に出してより身近に感じてもらえるようにしました。さらにハイビジョン映像で「岸和田の石」について学べるコーナーもあります。今



写真2: クリダステス頭部



写真3: ナウマンゾウ展示コーナー

回の展示更新では、展示配置と見学導線を見直し、壁面を間伐材を格子状に組んだものとする事で、圧迫感が少なく見通しが効くようになり、全体の展示に統一感を持たせ、ゆとりあるスペースを実現できたように思います。

これに加え、当館で一番人気の実習である「チリメンモンスターさがし」がいつでも疑似的に体験してもらえるよう、以前にコンピュータを置いてあったレファレンスコーナーを改装して、床面にチリメンジャコの拡大写真をはりつけた「チリモンコーナー」も設置しました。ここは、移動できる椅子や机も備えており、土日祝日には「ミニ実習コーナー」として、チリモンさがしや化石のレプリカづくり、ホタル石みがきなどの実習をおこなうことを計画しています。

すでに来館された方からは、岸和田と関わりのある見所のある展示がふえたと好評価をいただいています。また、今回の展示更新を機に、学校での自然学習にも活用していただけたら幸いです。新しく生まれ変わったきしわだ自然資料館にぜひお越しください。

(はまづかひろし：自然資料館アドバイザー)

Information

■ 岸和田城の展示案内 ■

企画展 「岸和田モダンタイム—大正～昭和戦前期の諸相—」

岸和田を舞台とする NHK 朝の連続ドラマ“カーネーション”が放映されることに伴い、ドラマ序盤の舞台となる大正期から昭和戦前期までの岸和田の様子を古写真や関連資料によって紹介します。

- ・ 期間：平成 23 年 9 月 7 日(水)～平成 24 年 3 月 11 日(日)
- ・ 時間：午前 10 時～午後 5 時 (入場は 4 時まで)
- ・ 入場料：大人 300 円、中学生以下無料
- ・ 休場日：月曜日(祝祭日を除く)・年末年始
- ・ 主な展示資料：「寺田甚与茂肖像画」「小川翠村筆 岸和田八景」「岸城町隣組の湯呑」
ほか 計約 40 点

■ きしわだ自然資料館の展示案内 ■

特別展「蔵出し！自然資料館」

常設展示リニューアルを記念し、自然資料館がこれまでに収集した膨大な資料の一部を展示するとともに、当館の活動を長年支えてくださっている皆さんによるこだわりの逸品も展示します。初めて公開する資料が多数あります。

- ・ 期間：1 月 4 日(水)～3 月 4 日(日)
- ・ 時間：午前 10 時～午後 5 時 (入館は午後 4 時まで)
- ・ 休館日：毎週月曜日(祝日は開館)、1 月 10 日(火)、31 日(火)、2 月 29 日(水)
- ・ 入場料：大人 400 円、中学生以下無料
- ・ 主な展示資料：昭和 30 年代に採集された大阪湾の貝類標本、明治～昭和 40 年代にかけて岸和田周辺で収集された生物標本、友の会会員が全国で収集した化石・鉱物標本、恐竜造形作家・画家・折り紙作家などによる作品など

お願い [fromM]は、学校教職員に1部ずつお配りください。

担当の方はお忙しいところ申し訳ありませんが、よろしくお願い申し上げます。

【from M】では、みなさまからのご意見、ご感想、ご質問等をお待ちしています。博物館での学習、研究等に関する情報、地域の自然環境や歴史に関する面白いトピックスなどがありましたら、ぜひご投稿ください。お名前、連絡先、所属等をご記入の上、右記の宛先までお送りください。電子メールでも受け付けています。

連絡・問い合わせ先

〒596-0072 岸和田市堺町 6-5 きしわだ自然資料館
TEL: (072) 423- 8100 FAX: (072) 423- 8101
Email: sizen@city.kishiwada.osaka.jp
自然資料館ホームページ URL:
<http://www.city.kishiwada.osaka.jp/site/shizenshi/>
(Yahoo Japan の検索で「きしわだ」と入力し、検索すれば、簡単です)